

阿賀浦コミ協だより

令和7年1月25日
広報第47号
阿賀浦コミュニティ協議会
agauracomikyo@coral.plala.or.jp

新年、明けましておめでとうございます。2025年の干支は、乙巳（きのとみ）です。60年周期の干支の中で42番目に位置し、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ年とされています。皆様いかがお過ごしでしょうか？

昨年は、未来ビジョンで検討してきました「阿賀満にじいろまつり」を満日コミ協、阿賀浦コミ協共催で10月26日（土）に阿賀小学校で行う事ができました。多くの方に参加、ご協力頂き、ありがとうございました。



第五中学校吹奏楽部演奏



渋谷一座による演奏

- 1 第五中学校吹奏楽部
12:40~13:00
- 2 渋谷一座
13:05~13:25
- 3 鬼太鼓越佐
13:30~13:50
- 4 心打太鼓威風
13:55~14:15
- 5 阿賀小ふるさと太鼓
14:25~14:45



鬼太鼓越佐演舞



心打太鼓威風演舞



長崎区長挨拶

未来ビジョンテーマ 阿賀満にじいろまつり



阿賀小学校ふるさと太鼓



ヨーヨー釣り



射的



11月16日（土）阿賀満にじいろまつりの反省会を行いました。アンケート結果等を踏まえて、課題を話し合い、来年度も実施することで合意されました。祭り実行委員長は、玉木さんから井浦さんへ引継ぎされました。玉木さん、関係者の皆さんお疲れ様でした。次回も宜しくお願いします。



キッチンカー

史跡の旅 文化教養部

10月29日(火)文化教養部企画の「史跡の旅」が開催され、各地区から総勢22名が参加しました。天候にも恵まれ秋晴れの新潟県北を散策見学しました。午前中は、「サトウのご飯」でおなじみの、サトー食品(株) 聖籠工場を見学しました。全自動化されたラインで炊飯からパック詰め冷却、箱詰めまで機械化されていました。



皆さんで集合写真、バチリ!



全自動化ライン
高速で流れる
ご飯パック



昼食は三宝茶楼で美味しい中華料理。

午後からは、新発田の白壁兵舎資料館を見学しました。明治7(1874)年に陸軍兵舎として建築された白壁兵舎は、国内に残る木造兵舎としては最も古いとされる歴史的建造物です。外壁が白い漆喰で塗られていたことから「白壁兵舎」と呼ばれるようになりました。新発田城の部材を再利用するなど、新発田の歴史が刻み込まれた建物です。八甲田山の映画にも協力したとの事で、撮影当時の写真(出演者若い)が掲示されていました。



白壁兵舎の見学、瓦には新発田藩の家紋



新発田藩制時代の資料展示



売店、海軍カレーもありました。

旅の最後は菊水酒造です。1881年(明治14年)高澤節五郎創業。1910年(明治43年)「菊水」商標登録。「菊水」の酒銘は『太平記』十三卷(龍馬進奏の事)における『菊慈童』という能楽に起源を求めたものです。菊の水は不老長寿をもたらすものであり、これに因み酒銘「菊水」が生まれたとの事です。



手入れされた庭園



酒蔵見学



お酒に関する道具、酒器類見学



仕込みタンク



売店で利き酒とお土産購入

秋季フロアカーリング大会開催

11月3日(日) 阿賀小学校体育館にて秋季フロアカーリング大会がスポーツ部主催で行われました。

今回は、9チームの参加があり、坂口副会長の挨拶に続いて、ストレッチ体操、小林スポーツ部長による競技の説明後、A、B、C 3ブロックに分かれてリーグ戦で競技が開始されました。各ブロックの順位に基づき2次リーグ戦で試合が行われ順位が決まりました。

今回も、各チーム熱誠で盛り上がりました。次回も皆様の多くの参加を期待します。



坂口副会長挨拶

ストレッチ体操

小林部長競技説明

競技風景

優勝

新金沢町和楽

第2位

となり

第3位

大安寺G6



新金沢町和楽



となり



大安寺G6



新金沢町



東町あやめ



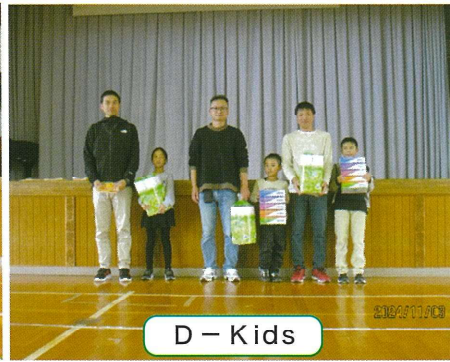
東金沢老友会



東町草刈部隊



東金沢スクラム



D-Kids

新金沢町クリスマスイルミネーション点灯式

12月1日(日)新金沢町では毎年恒例のクリスマスイルミネーション点灯式が行われました。煌びやかな光が街を彩り、クリスマスムード一色です。地域の皆さんと交流が深められました。



小雨の中参加者の皆さん



イルミネーション点灯



大安寺スイセン球根植え

大安寺自治会では、11月9日(土)集落開発センター協の“檀一雄句碑”のある堤防のり面に一昨年に続き、スイセンの球根3種類280個を植えました。一昨年植えた球根も昨年4月にはそろって開花しました。4月の開花が楽しみです。皆さん観に来てね!



堤防のり面へ球根植え



縄を張って真っすぐに



参加の皆さん



一昨年のスイセン開花

阿賀浦コミ協だよりは、「新潟市地域活動補助金」を活用しています。

安吾 WORLD2024 第3回開催

今年も、3年目となる安吾講座、

「安吾 WORLD 2024」を企画・開催しました。安吾文学に造詣の深い講師陣をお招きし、第3回目を9月28日(土)に行いました。

新潟市出身で、佐渡にルーツを持つフリーのライター、編集者の本間大樹さんを講師にお招きし、演題「安吾と松之山ーボーダーから始まる文学」とし、“安吾の姉「セキ」が嫁いだ松之山家に滞在し、安吾は心のふるさとと同時に文学のふるさとをそこに見た。辺境から始まった安吾の文学の真髄とは？”について講演を頂きました。



大棟山美術博物館(旧村山家)



村山真雄とその家族



講演風景



本間大樹さん

安吾は松之山とはとても縁が深い、まず安吾の叔母で安吾の父の仁一郎の妹の貞が松之山の造り酒屋の長男、村山政栄に嫁いだ。ついで安吾の姉で5女のセキが、明治43(1910)年、安吾4歳の時に村山真雄に嫁いだ。真雄は新潟中学校時代、西大畑の安吾の実家に寄宿しており、安吾は子供の頃から真雄とも知っていた。その為安吾は、頻りに松之山の村山家を訪れて滞在していた。現在村山家は、「大棟山美術博物館」として旧家の造りと品々、安吾の残した画譜など、歴史的な史料が保存されている。安吾は新潟の実家になじめず孤独を感じていたが、自然にあふれ、歓待してくれる松之山を第二のふるさと、心のふるさととして親しんだということが考えられる。「黒谷村」「村のひと騒ぎ」「麓」「逃げたい心」「閑山」「山の貴婦人」「木々の精、谷の精」など安吾の作品の中には松之山とつながるものが多い。(講演資料より抜粋引用)

安吾 WORLD2024 第4回開催

「安吾 WORLD 2024」今年度4回日の講演会を、11月23日(土)に開催しました。講師には、安吾の卒業した東洋大学校友会理事の斎藤淳さんをお招きし、演題「安吾の青春～坊主の学校でいかに修業したか～」とし、“自伝的小説から読み解き、仏教をどう学び、その後の生き方、作品にどう影響したかを明らかにする。”講演を頂きました。

「私は新潟中学というところを三年生の夏に追い出されたのだが、その時、学校の机の蓋の裏側に、余は偉大なる落伍者となっていていつの日か歴史の中によみがえるであろうと、キザなことを彫ってきた。もとより小学生の私は大将だの大臣だの飛行家になるつもりであったが、いつ頃からは落伍者に志望を変えたのであったか。」「東京の中学へ来てからは、小説を読むようになったが、宗教の本をよけい読んで自然哲学の本なども読みふけた」安吾は、東京に出てからは、一日4時間の睡眠と決めて10時に寝て2時には起きて、猛勉強を行っている。眠い時は井戸端で水をかぶった。また、フランス文学にも興味を示しフランス語勉強の為にアテネフランセに通っていた。東洋大学を優秀な成績で卒業している。



斎藤淳さん



坂口安吾の旅
若月忠信氏引用

東洋大学時代の坂口安吾(昭和三年)

安吾 WORLD 2024

<<坂口安吾 魅力と謎と伝説>>

主催：阿賀浦コミュニティ協議会

阿賀浦地区ゆかりの著名な文豪「坂口安吾」に造詣の深い講師陣を迎えて理解を深める講座を開催。加えて生誕祭、安吾忌などのイベントも企画、奮ってご参加下さい。

場所：新津地域学園 2F 201教室
時間：13:30～15:00

 第1回 5月25日(土) 講師：斎藤良助氏 <small>テーマ：天童談の戦後文一 坂口安吾と三島由紀夫・大江健三郎</small>	 第2回 7月27日(土) 講師：永田幸男氏 <small>テーマ：安吾物語の中の新潟</small>	 第3回 9月28日(土) 講師：本間大樹氏 <small>テーマ：安吾と松之山ー ボーダーから始まる文学</small>	 第4回 11月23日(土) 講師：斎藤淳氏 <small>テーマ：安吾の青春～ 坊主の学校でいかに修業したか～</small>
--	--	--	---

坂口安吾生誕祭

阿賀浦コミュニティ協議会では10月27日(日)に新潟薬科大学4F大講義室を会場に、ご子息「坂口綱男」さんを講師にお迎えして、「安吾のルーツ」をテーマに講演を頂きました。

講演に先立ち、朗読サークル「朗読あきは」の方より安吾の作品、「新日本風土記」から「越後の毒消し」を朗読して頂きました。富山の薬売りと越後の毒消し売りについて安吾が取材分析した内容です。角海浜、岩室地域の女性の生活を通して当時の地域の魅力を語って頂きました。

安吾の祖先は、坂口家の青史「五峰餘影」(昭和4年坂口猷吉編)によると、先祖は肥前唐津の陶工で、江戸の初期加賀の大聖寺に移って九谷焼をつくり、その後多くの従者を引き連れて越後長岡を経て蒲原の地に定住したとある。安吾の本籍は新潟県中蒲原郡阿賀浦村大字大安寺(現秋葉区大安寺509番地)。この地で坂口一族は阿賀野川沿岸の湿地開墾を行い土地と富を手に入れた。安吾の父、仁一郎は代議士となり新潟市西大畑に移住しそこで安吾が生まれた。安吾は、東京、静岡など転居を重ね最終的に群馬県桐生に移りそこで綱男さんが生まれた。綱男さんの本籍地も秋葉区大安寺509番地のまま変更していないとのこと。安吾の長兄、猷吉は新潟日報の社長となった。安吾は昭和30年2月、まさに最後の旅となった高知の取材旅行から帰りの途中東京上野から桐生に電話をかけて綱男さんの声を聞いた。この旅から桐生に帰り、2月17日朝、脳出血で急逝した。享年48歳。安吾は、大安寺の坂口家墓所に長兄、猷吉さん、妻の三千代さんと眠っている。ぜひ機会を作って訪れて欲しい。

坂口安吾の長男 綱男氏が安吾の世界を語る

安吾 WORLD2024
坂口安吾生誕祭
生誕記念講演会

テーマ: 「安吾のルーツ」

10.27 (日)
13:30~16:00

会場: 新潟薬科大学
新潟駅東口から徒歩180名
秋葉区新津本町1丁目
「あちこちらあけ」の句碑が近くにあります。

郷土が生んだ文豪「坂口安吾」を身近に感じる!

朗読サークル「朗読あきは」による「新日本風土記」朗読予定

講師 坂口 綱男 氏
群馬県桐生市にて、機械師の家
坂口安吾と三千代の子供として生まれる。
父の死後として、コロンビア大学、ボストン大学、
麻州大学で学位取得。卒業後、東京、京都、
岡山と赴き、約三千代の子供は、父・安吾に則して講
義、執筆もしている。



八代目坂口津右衛門



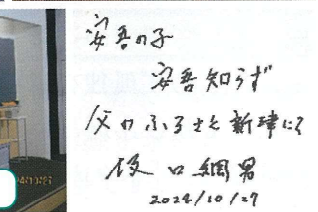
朗読あきは



聴講者の皆さん



坂口綱男さん



安吾の子
安吾知子
父のふいと新津に?
坂口綱男
2024/10/19

新津安吾忌

阿賀浦コミュニティ協議会では、安吾の命日、2月17日(月)に、今年で3回目となる「新津安吾忌」を行います。



坂口家墓所

安吾作品の「桜の森の満開の下」を、朗読家、加藤博久さんに朗読頂きます。細山田昌子さんによるピアノ演奏で、安吾が好きだったエリック・サティの曲を演奏して頂きます。朗読会の後、マイクロバスで坂口家の墓所をお参りする予定です。参加は無料ですので以下より申し込み下さい。

簡単申込QRコード、またはEメール、FAX、ハガキにて下記必要事項を記入の上、阿賀浦コミュニティ協議会事務局までお申し込みください。

- ①氏名 ②生年月日 ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号
- (⑥Email)

〒956-0816 秋葉区新津東町2-5-6 新津地域学園内
阿賀浦コミュニティ協議会 事務局
FAX: 0250-25-7655
Email: agauracomikyo@coral.plala.or.jp



新津安吾忌
記念朗読会

安吾作品の朗読: 「桜の森の満開の下」

2025年2月17日(月) 新津地域学園201研修室
13:00~15:00 ピアノ演奏 朗読会
15:00~ 宴会 地域学園より送迎あり
申込必要 会場無料 定員80名

加藤博久 プロフィール (朗読家)

神戸生れ、長岡育ち。越後の方言や言葉の魅力に惹かれて以来~言葉の表現活動に入る。長岡演劇研究会を創設。ラジオパーソナリティ、司会、TVナレーターなど他方面で活躍。朗読集団「ついで言の葉」主宰。日本朗読検定協会認定教授・検定員。朗読検定1級。現在まで朗読講師として後進の指導にあたり、朗読検定の普及に尽力。2019年「青空文庫朗読コンテスト」全国優勝の実績を持つ。
~安吾作品が持つ普遍的な魅力と美しい日本語に魅了されて、その表現に傾注しています。~



細山田昌子 プロフィール (エリック・サティ曲 ピアノ演奏)

経歴: 神戸大学教育学部音楽科卒業。ピティナ演奏検定優秀賞。日本クラシック音楽コンクール全国大会出場など、数々のコンクールで入賞。ショパン国際ピアノコンクール in ASIA やベートーベン音楽コンクールでも上位入賞。活動: 新潟県立歴史博物館や大阪府和泉市久保記念美術館などのミュージアムコンサート出演など演奏活動を行っています。資格: 公認心理師の資格も保有。